

学びを支えるスキルづくり部会（研究のまとめ）

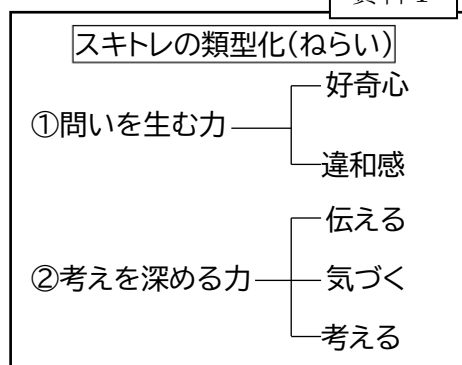
1 はじめに

本研究では、「自らの意志で学び続け、未来の創造に向けて動き出す生徒の育成」に向けて、三つの力（①問いを生む力、②考えを深める力、③学びを行動に移す力）を高めていくことを目指している。

学びを支えるスキルづくり部会では、3つの力のうち、主に①問いを生む力、②考えを深める力の2つを支えていく。そこで、朝活動の時間を利用して、週1～2回、10分程度のスキルアップトレーニング（スキトレ）を行っている。スキトレでは、話型を身につけていくトレーニングだけではなく、類型化したねらいに合わせてトレーニングの開発・実践をしている。

なお、③学びを行動に移す力については、振り返り活動を充実させていくとともに、各教科の授業や学級活動、委員会活動などを通して生徒の力を支えていく。

資料1



2 実践の内容

(1) 1年目の取り組み

部会メンバーで、2つの力を支えていくトレーニングを開発してきた。週1回の実施で内容がオリジナルであるため、生徒がルールを理解できるように、担任へ活動内容を周知したり、同じような活動を繰り返したりしながら、限られた時間の中でトレーニングが行えるように工夫してきた。また、1回目の活動を行った後、活動内容の見直しを図ることによって、2回目の活動を充実させることができた。

(2) 2年目の取り組み

2年目からは、資料1のようにトレーニングを類型化した。二つの力を5つ（好奇心、違和感、伝える、気づく、考える）に整理することによって、ねらいを明確にして実践を積み重ねていった。（資料2）また、2年目の後半からは、担任へ活動内容を伝える際、トレーニングのねらいだけでなく、トレーニング後に期待する生徒の姿（振り返り例）を示していくことで共通理解を図った。

資料2

	ねらい	題名	内容
1	好奇心	物事に関心を抱く ～何を作っているのでしょうか?!～	「何を作っているのか」と好奇心をもって物事を見る
2	好奇心	〇〇に質問してみよう	身の回りにあるものに興味をもち、質問内容を考える
3	違和感	違和感に気づく ～Why Japanese people?～	宇宙人や外国人の視点に立って考えることで、違和感に気づく
4	違和感	物事を注意深く見る ～アハ体験～	徐々に変化していく映像を見て、変化に気づく
5	伝える	相手に伝えよう ～言葉でイラストを描けるかな～	イラストを見て、より正確に情報を伝える方法を考える
6	伝える 気づく	絵描き歌を聞いて絵を描こう	絵描き歌から足りない情報に気づき、わかりやすく伝わる表現を考える
7	気づく	パンパンパン? ～擬音で表そう～	イラストから気づいた様子を擬音で表現する
8	気づく	新商品の開発をしよう!! ～思考の偏りに気づく～	新商品の開発により、自分の考えを修正したり、新たなアイデアを考えたりする
9	考える	NGワード ～〇〇、何でしょう～	テーマに対してイメージできる語彙を制限し、相手にどう伝えたらよいか考える
10	考える	2 on 2 ミーティング	違うグループの会話のよさや改善点を考え、自分たちの会話に生かす

3 実践の様子（2年目の取り組みから）

(1) 「物事に関心を抱く～何を作っているのでしょうか?!～」

問いを生む力（好奇心）

①ねらい

- ・物ができあがるまでの工程を見て、正解を仲間と競い合って答えることで、答えたいという意欲を高め、好奇心をもって物事を見る

②成果

1回目は「デジタルカメラ」、2回目は「コンパス」ができるまでの工程を動画で見せた。答えに確信がもてる映像が出てくる手前で動画を止め、生徒に答えを予想させると、それまでの映像から読み取れることをヒントに思い思いの答えを言った。また、クイズ形式にしたことにより、生徒が意欲的にトレーニングに取り組むことができた。2回目のトレーニングでは、ばらばらに作られる部品をどう組み合わせればよいかと考え始める生徒がいた。物ができあがるまでの工程という、ふだん見ることができない場面を見られることにおもしろさを感じる生徒もいた。振り返りには、「おもしろかった」「わくわくした」という記述が多く見られ、生徒が好奇心をもって動画を視聴する活動に取り組んだことがわかった。



生徒が視聴した動画

普段見たりしてるものをイメージしとかいて考えてたけど、最後まで全然分かんなかった。でも見れない部分とかも見てたからほんまにワクワクしました。

生徒の振り返り

③課題

生徒の身近なものが答えになるように、クイズのもととなる動画を探した。ねらいに合う動画がなかなか見つからなかったり、動画の編集に時間がかかったりと、トレーニングに用いる教材の準備を効率的に行えるとよかった。

(2) 「違和感に気づく～Why Japanese people?～」

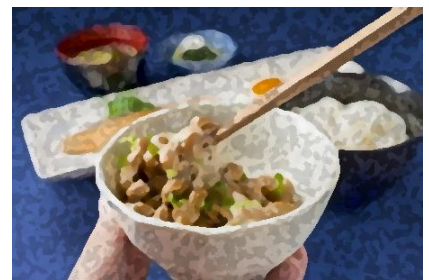
問いを生む力（違和感）

①ねらい

- ・あたりまえに目にしているものに対して、違った視点から見たり考えたりして、「なんでだろう」という疑問をもつ

②成果

日本人や地球人にとって、あたりまえである日常の風景を、外国人や宇宙人の立場から見つめ、どんな疑問をもつか考えた。納豆や集団行動の場面など、日常生活の中で目にするあたりまえの風景に疑問をもったり不思議だと感じたりしようとする姿が見られた。「自分が他の人になりきり、あたりまえのことを変だと思えることが意外と難しかった」という振り返りも見られ、日頃特に気にせず触れていることに対して、疑問や不思議に思うところを見つけることに難しさを感じていることが伝わってきた。そして、難しさを感じるなかで「自分たちはすべてあたりまえに見えるけど、少し自分の設定を変えて、視点を変えるだけでかなり変わらと思った」と物事を客観的に見つめる視点の持ち方についても気づいたことがわかる記述があった。



生徒に提示した写真

振り返り
自分たちはすべてあたりまえに見えるけど、少し自分の設定を変えて、視点を変えるだけでかなり変わらと思った。この写真が外国の視点で見ると全然かわると思えた。また、この写真が外国の

生徒の振り返り

③課題

宇宙人という設定が生徒の実態とかけ離れすぎて、想像することに難しさを感じる生徒が多かったので、2回目は外国人という設定で同じような取り組みを行った。ねらいを達成するために、ねらい以外の要素で生徒がつまづかないように、トレーニング内容を考える必要があると感じた。

(3)「相手に伝えよう～言葉でイラストを描けるかな～」 考えを深める力（伝える）

①ねらい

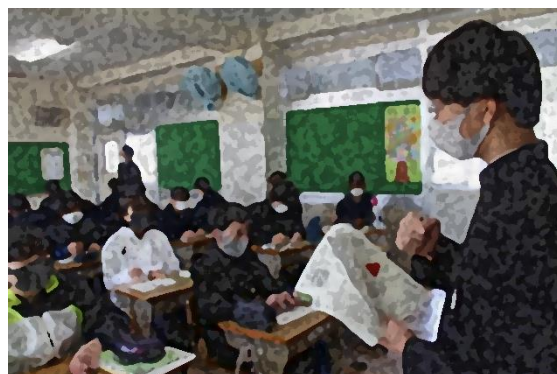
- ・ 伝える側：イラストを伝える活動を通して、より具体的な言葉を使って伝えようとする
- ・ 聞く側：伝えられた言葉だけを手がかりにイラストを描いた後、もとのイラストと比べながらよりわかりやすく伝わる表現を考える

②成果

ふだん目にしている雲や花のイラストを、言葉だけで表現することに難しさを感じていた。トレーニングを行う中で、言葉だけで同じイラストを描くために、色や数字を使ったり、描いてほしいものと似ているものに例えたりして、できるだけ具体的に伝えようとする姿が見られた。振り返りには、「形、色、位置、大きさを具体的に伝えることで相手が想像しやすくなることがわかった。いくつか同じものがあるときは数字を使うことでわかりやすくなる」といった記述が見られた。また、話す順序や話し方に着目している生徒もいた。

相手に伝える時は形、色、位置、大きさを具体的に伝えることで相手が想像しやすくなることがわかった。
また、いくつか同じものがあるときは数字を使うことでわかりやすくなると思いついた。

生徒の振り返り



イラストのイメージを言葉で伝える生徒

③課題

イラストからの情報量が多かったため、説明するのに時間がかかった。今回は代表の生徒だけが伝える活動を行ったので、次回トレーニングする際には多くの生徒が伝える体験ができるようにしたい。

(4)「新商品の開発をしよう!!～思考の偏りに気づく～」 考えを深める力（気づく）

①ねらい

- ・ 批判的思考（新たな視点を知ること）で物事を見つめることで、自分の思考の偏りに気づき、自分の考えを修正したり、新たなアイデアを考えたりする

②成果

消しゴムや筆箱の新商品を開発する設定でトレーニングを行った。豊富で柔軟なアイデアが多く出され、それらを教師が批判的思考の「オズボーンのチェックリスト」に合わせて、アイデアを分類したり、新たな考え方を

紹介したりした。教師が生徒の意見を価値づけることにより、自分の意見がどういった思考から生まれているのか明確にすることができた。生徒の振り返りには、「私は変更を使って考えたけど、応用や転用など、いろんな考え方があ

例) 鉛筆の新商品

	内容	鉛筆で考えてみると・・・
転用	他に使い道はないか？	2本にすれば、箸になる！
応用	他に真似できるものはないか？	芯が出る鉛筆（ロケット鉛筆）
変更	形や機能を変えてみたらどうか？	色鉛筆
拡大	大きく、強くしてみたら？	折れにくい芯
縮小	小さく、省略してみたら？	携帯用の短い鉛筆（クリップ鉛筆）
代用	他の材料、他のもので代用できないか？	素材をゴムにして手触りをよくする
置換	他の活用方法はないか？	インテリアとしても使えるおしゃれな鉛筆
逆転	役割を逆にできないか？	油性の鉛筆（消えない鉛筆）
結合	組み合わせてみたらどうか？	消しゴム付き鉛筆

オズボーンのチェックリスト

って、おもしろいなと思った。消しゴムと、他のものをくっつけるという考えが私にはなかった」と、友達の意見から自分にない発想に気づくことができた。また、2回目の振り返りには「消しゴムのときよりアイデアを思いつきやすかった」と前回の思考をもとに新たなアイデアを生み出している姿が見られた。

③課題

前日にテーマを伝え、新商品のアイデアを考えてくるという事前指導が生徒の負担となってしまった。生徒の考えた豊富なアイデアを出し合うだけで時間が必要となり、10分という短い時間内で振り返りまでを含めたトレーニングを終えることが難しかった。

(5) 「NGワード～〇〇、何でしょう～」 考えを深める力 (考える)

①ねらい

- ・さまざまな視点で捉えて、言葉を精選しながら相手に伝えた後、その表現をもとにどんな伝え方がよいか具体的に考えることができる

②成果

使用する言葉を制限することによって、何を相手に伝えればよいのかを必死に考える生徒が多く見られた。また、お互いが伝えた言葉のどの表現を訂正したらより相手に伝わりやすいのかを考えることにより、新たな表現の仕方を身につける姿も見られた。生徒の振り返りにも、「ただ話して聞くだけでなく、自分が書いた表現の仕方を友達と考え直すことで新たな発見ができた」という記述があった。2回行うことにより、NGワードを避けながら、自分が思い描いたものを相手に伝えるにはどうしたらよいかを具体的に考えられる生徒が増えた。

③課題

学級や学年によっては、短い時間で文章を組み立て、伝えることが苦手な生徒が見られた。このような生徒には、制限する言葉の数を減らすなどの支援をすべきだと感じた。

・キリン ×首が長い、黄色
・ゾウ ×耳が大きい、鼻が長い、水をかける

使用する言葉とNGワードの例



トレーニング中の生徒の姿

4 おわりに

2年目（令和3年7月）と3年目（令和4年7月）に行った生徒アンケートの「朝のスキルアップトレーニングで、自ら「？」を見つける力が高まっている」という設問を比較すると、「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的に捉えている回答が、53.8%から59.4%と5.6ポイント上昇した。また、3年目に行った記述式の生徒アンケートの「印象に残っているスキトレのなかで、学習や生活に役立ったトレーニングはありますか」という質問に対して、以下のような結果が得られた。

- ・自分のあたりまえや常識は相手にはわからないことがあるので、自分の考えを話すときに、わかりやすく話すことを意識している。
- ・日本人だからわかることが、もし違う人たちだったらという新しい見方によって、授業中の疑問や自分の考えが増えるようになった。
- ・日ごろのできごとを友達や親に伝えるときに、具体的に説明することができた。

以上のことから、生徒自身が力の高まりを実感できていることがわかった。今後も引き続き、生徒の力を支えていけるように、ねらいを明確にしてトレーニングの開発・実践をしていきたい。